

1 4版

昭和8年6月20日第三種郵便物認可

平成25年(2013) 日刊25373号

8|3 [土]

産経新聞(サンケイ) THE SANKEI SHIMBUN 発行所 ©産経新聞大阪本社 2013 千556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57 大阪(06)6633-1221(大代表)

新聞 産経

によると、通行量は平日12万人、土日17万人で前年比5~7%増と好調。「街に活気を与える出店は大歓迎」と担当者。店や人は変わりつつも、心斎橋という街が発する魅力は今も昔も変わらない。(阿部佐知子)

変わる心斎橋⑫ 梅田や天王寺・阿倍野の大規模開発で、地盤沈下が心配された心斎橋。しかし、若者に人気のファッション店、雑貨店が相次ぎ開業し、通行客は増加している。心斎橋筋商店街振興組合

編集余話



至福 こだわり古書店

開いてくるとよかったです。 昨年、かべ新聞にしようと思ってた新聞記事がひょっこり出てきました。 新しく出来ては変わり、変わっては出来ての浮田・中崎戦国時代。 ホームページを検索すると、ツイッターも更新中で、開いてよかったです。

大型チェーン店やインターネット通販が主流の古書店業界で、個人経営の「小さな古書店」が出店するケースが目立っている。専門のジャンルに特化したたり、喫茶店や雑貨店を兼ねたりと店ごとに「こだわり」があるのが特徴だ。おしゃれな空間で、店主や客同士が本にまつわる会話を楽しむ店も出てきており、「本」を通じた新しいコミュニケーションの場にもなっている。

大阪府北区の中崎町。古い長屋の一部を改装した古書店「アラビク」の看板には「珈琲と本」の文字。木製の引き戸の先には土間に壁一面に約1500冊のミステリーとSFが並ぶ。店主の森内さん(40)は勤めていたセネコンを辞

分野特化&喫茶:客と会話

め、6年前に店を開いた。「もともと喫茶店や本、特にミステリーとSFが好きだったので、一緒にやってみよう」と思っていた。森内さんはエプロン姿。店の奥のカウンターに注文に応じてコーヒーをいれる。客は森内さんと好きな作家や本の話をしながら過ごす。

大阪府北区、大川沿いの雑居ビルで美術・芸術系の古書を取り扱う「モデルナ」も、アンティークな雰囲気気の店内に写真集や美術書が置かれている。3年前



木造家屋を再利用した「アラビク」には、ミステリーとSFの古書がずらり。中央は森内さん =2日午後、大阪府北区(沢野貴信撮影)

えのか。鎌田さんは「ネットが普及したから」と説明する。昔ながらの古書店は、バブル期の1980~90年代を最盛期に店舗数が減少。入れ替わるように、インターネットによる通販が普及しはじめた。古書店だけでなく、大阪府古書籍商業協同組合によると、「ここ数年に加入した組合員は、インターネット販売のみの人が多し」という。

「天敵」ネットが追い風

鎌田さんもネット販売だけでなく古書を取り扱っている。そのファンが集まる

よりマニアックな本が買取りに持ち込まれる好循環も期待できる。

古書に関する著作のあるライター・岡崎武志さんは、こうした傾向に「古書店という空間が好きで、店を持つたい」という人が増えているのだらう」と分析する。

「10年ほど前は、「ネット」の普及で紙媒体は廃れる」と言われていたが、結局は「モノ」としての価値があり、書店には「空間」としての価値があって、それは失われることはない。今後は、こうした新しいタイプの古書店は増えていくのだらう」と話している。



ここアラビクさん

ここタップハウス

つい先日、うちのおかあちゃんが入院しました。「おかあちゃん」と一口に言っても、奥さんのことを「おかあちゃん」と呼ぶ人もいるし、おふくろのことを「おかあちゃん」と呼ぶ人もいます。

私の場合は、「おふくろ」なんて呼び方はショウケンさんしか似合わないと思うからか、母親のことをくすりと笑ってもらうために、「おかあちゃん」と呼んでみたりします。

そんな母は、ちよつと前に一躍名をはせたあのT洲会病院に入院しました。病名は肺炎。

印刷も編集も製本も原稿作成もしています

TAPP 株式会社タップハウス 大阪市北区浮田2-2-14 辻芳ビル TEL.06-6375-2151 FAX.06-6375-2295

このビルの 右端の階段から3階へ

産経新聞大阪本社版 2013年6月3日(土)夕刊 4版1面より